

神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校 令和6年度 第2回学校運営協議会 学校設置部会「進路指導部会」
開催日時	令和6年11月28日(木) 14:00~16:00
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校 大教室
出席者	<p>[役員名]</p> <p>[委員] 川口 吉秋 (会長、元県立高等学校長) 一杉 太郎 (東京大学大学院教授、本校卒業生) オンライン参加 田中 均 (柏樹会会長) 野沢 重和 (柏陽高等学校長)</p> <p>[事務局] 大河原 広行 (副校長)、鈴木 克俊 (教頭) 水戸 瑞樹 (総括教諭)、市田 尚史 (総括教諭)、吉田 将人 (総括教諭)、 柳澤 耕介 (教諭)</p>

～開会～

1 校長あいさつ

○野沢校長より、本校の近況報告があった。

- ・文化祭(柏陽祭)を9月21日、22日の2日間実施。6~7,000人の来場者があった。
- ・修学旅行で沖縄へ行ってきた。昨年はインフルエンザで大変だったが、今年は穏やかな修学旅行だった。
- ・姉妹校交流として、台湾三重高校が来校。こちらからもぜひ行きたい。資金面が課題。
- ・部活動では、軽音楽部(関東準グランプリ)、競技かるた部(県代表)、英語部(ディベート大会優勝)などの活躍があった。
- ・現在、後期中間試験実施中。
- ・学力向上進学重点校に引き続き指定されている。生徒の人間性も伸ばしていきたい。

2 学校設置部会「進路指導部会」について

○大河原副校長より概要についての説明があり、その後、出席の事務局員の紹介があった。

3 進路指導について

○市田総括教諭より、資料を用いて進路指導における取組について説明があった。内容は次のとおり。

- ・マイストラテジーの冊子化が完了。
- ・東大・東工大 in 柏陽が好評を得ており、拡張したい。
- ・大学を知らない生徒へのアプローチとしてオープンキャンパスを薦めている。
- ・第1回推薦会議の傾向として、年々応募者が増えている。過年度生で総合型・学校推薦型が出てきた。
- ・一般受験への指導として出願指導検討会を実施。今年は2学年の職員まで拡大。
- ・共通テストシミュレーションを、本番同様の日程でおこなう。
- ・校内模試に関しては、2学年の回数を増やしたい。
- ・新入学生への第1回進路説明会を入学前に実施。保護者対象進路説明会も複数回実施。
- ・職員向け進路研修会を実施。模試の振返りを授業に活かす。
- ・GTECを実施。

○水戸総括教諭より、資料を用いて研究・広報における取組について説明があった。内容は次のとおり。

- ・8月にシンガポール研修を実施、本校生徒42名が参加。語学系の研修は生徒から高い評価を得ている。
- ・8月15日に、オープンキャンパスを初めて実施。中学生に柏陽高校の授業を体験してもらった。
- ・学校説明会を2回実施。本校は、ペアワーク・グループワーク・ディスカッションなどの主体的・対話的な学びが他校より多いことを紹介。この場所で自分を成長させたいと思ってもらえるよう工夫した。
- ・11月8日に、在校生・中学生の保護者向けの公開授業を実施。生徒同士が関わり合う授業を見てもらった。
- ・科学と文化において、探究活動推進チームが職員功労賞を受賞。生徒に深い学びを届けられている。

○吉田総括教諭より、資料を用いて教務・学習における取組について説明があった。内容は次のとおり。

- ・授業改善に関して、7月にお互いの授業を見合う期間を設定した。また、生徒による授業評価の結果を各教科にフィードバックし、11月の研究授業に向けて授業内容を検討してもらった。
- ・キャリアアップ講座・実力アップ講座を実施。やり方を工夫し、参加者を増やしたい。

4 協議

様々なやり取りがあったが、ここでは主なものを挙げる。

○進路指導について

- ・目標を下げて学校推薦を狙う生徒への指導法は。
→1月の第一志望宣言を重視した指導をしている。
- ・志望校が変わったらどう指導するのか。
→変わる理由を説明できるようにさせる。
→自身の学力を判断できるように指導しているということか。
→浪人・地方進学可否によって、指導のあり方が変わる。
- ・教員・指導部・学年進路指導における動きを示した職務行動計画は作っているのか。
→特に書類は作っていない。
→学年によって進路に対するモチベーションが変わってしまっていてはいけない。作っても良いのでは。
→見える化は大切。ただ、柏陽高校は全職員、進路や授業に対する意識は高い。見ればより良い。
→諦めさせない指導が大切。
→校内偏差値を出し、先輩の学校内順位や進学した大学を参考にさせている。
- ・生徒による授業評価に関して、生徒が本当に良い授業をわかっていない可能性もある。本当の課題解決力とは、テストの点を取るだけではない。
→本当にその通り。小手先ではなく本質を問う試験を高校でもお願いしたい。
→授業に関しては、学校全体で学び合いや発表を意識しており、教科で共有している。3年の受験期を見据えて授業をするよう伝えている。
→どのような授業を行うかを職員会議などで共有する必要がある。
→生徒の評価が低い理由は、授業の内容の他にある場合もある。それを改善するのも授業改善。安直な解法に流れないようにする必要がある。答えだけだと思慮力を問えない。教材の共有化はどうなっているか。
→教科によって違う。

○広報について

- ・学校ホームページの更新、学校案内にこだわりがあるのだが。
→本校のホームページ担当は5人いる。更新のスピードは早い。
→柏陽高校の広報には欠点がある。硬い。真面目。中学生が行きたいと感じさせないといけない。

○進路指導について

- ・東京大学進学的人数が全てではないが、最近少ない。それから、海外の大学への進学はあるのか。
→先輩が複数人入れれば、増える可能性はある。東京工業大学はたくさん受ける。一橋大学は増えない。
→家から通わせたい、という家庭が多い。地方の旧帝国大学はようやく増えてきた。
→言われたことに応えたい、という生徒が多い。進路指導次第なのかもしれない。
- ・「授業の柏陽」というが、授業を見たことがない。どこかで見させてもらいたい。
→問題ない。
- ・廊下に東進の講師の授業の告知があったが、どういう経緯か。
→個人的な付き合いのある人から、打診があった。本校教員からは、色々意見があった。
- ・先生方、本当に忙しいが、この学校ならではのよろこびを持って、頑張ってもらいたい。

5 事務局より

○大河原副校長から、今回は3月を予定していることの連絡があった。

～閉会～

今後の検討事項	
主な会議資料	・進路指導における課題と対応について ・研究・広報グループの取組について ・2024年度第1回生徒による授業評価集計結果 全教科
問合せ先	県立柏陽高等学校 副校長 大河原 広行 電話番号 045(892)2106